

## 産官学連携の進展に向けて

情報処理学会で検討を進めている、大学における情報専門教育のカリキュラム標準の中間報告を社会にお届けできることになった。平成 17 年に会長に就任して、情報処理学会が「学術の焦点」と「実務の焦点」の 2 つの中心を持つ運営を行っていくための諸活動を推進してきたが、その一つに情報専門教育のカリキュラム標準の整備があった。情報処理学会は 1997 年に J97 の略称で知られているものを公表しているが、それから 10 年の間に情報技術・情報産業はインターネットの進展とも相まっての爆発的な展開を遂げていることを反映した新しいカリキュラム標準を打ち出すことが社会的にも求められていたからである。

2006 年度（平成 18 年度）にカリキュラム標準策定のための J07 プロジェクトが立ち上がった。2007 年度末に最終報告書を仕上げる目標としているが、2006 年度末までに、情報分野専門教育の 5 領域、すなわち、コンピュータ科学・情報システム・ソフトウェアエンジニアリング・コンピュータエンジニアリング・インフォメーションテクノロジーについて、それぞれに教育対象とする知識体系とそのコアとなる項目群の洗い出しが終わった。その報告文書を受け取ったのは、会長任期の最後の理事会の席であった。そこから更にプロジェクトチームが手をかけ、内容を広く知っていただくための体裁を整えて、この文書として世に送り出すことになった。

情報産業の振興に向けて求められる人材の育成に関しては、産官学での連携が進められているところである。J07 は、“学”が考える教育内容を取りまとめた参照文書として位置づけられるべきものである。この報告書は、その骨格となる知識体系を取りまとめたものである。各界からのコメントをいただき、よりよいものにしていけると幸いである。また、J07 最終報告が公表できるまでの間、産官学での人材育成に関する議論において、この中間報告書が共通の参照文書として機能することを望んでいる。

2007 年 7 月 31 日

安西祐一郎

情報処理学会平成 17・18 年度会長

慶應義塾長、慶應義塾大学長